

八丈やろごんプロジェクト

【地域の背景】『八丈町の基本構想基本計画』

- ・地域主権改革・地方分権改革による、自己決定と自己責任による自治体運営が求められ、基礎自治体としての行財政基盤の確立が必要となっている。
- ・まち・ひと・しごと創生法案の流れによる、人口減少問題への対応と地域活性は重要な課題である。

島の豊富な資源を活用した地域探究学習を通して、生徒のキャリア教育を推進する。

【生徒の背景】『八丈高等学校グランドデザイン』より

- ・目標に向かって切磋琢磨し、主体的に行動できる生徒が増えている。
- ・協調性があり、まじめで素直な生徒が多い。
- ・多様な生徒に応じた指導の充実が求められている。
- ・卒業後の進路も多様。

『事業運営への助言』
東京都教育委員会
産業技術大学院大学

『地域人材の紹介』
八丈町企画財政課

『事業広報』
八丈町役場「広報はちじょう」
八丈支庁「支庁の風」
HP、Twitter

『八丈島を支える人材』

島内外に戻ってきて地域を盛り上げる生徒
島の外から島の良さを発信する生徒

コンソーシアム
管理：八高、地域協働学習実施支援員

【学校の背景】『八丈高等学校グランドデザイン』より

- ・普通科・園芸科・家政科の3つの科を設置する八丈島で唯一の高校である。
- ・青島特別支援学校八丈分教室が設置
- ・島の人口減に伴って生徒数も減少
- ・地域との結びつきが強く、島内の様々な行事に参加する生徒が多い。

『授業専門領域補助』
八丈町教育委員会
エコツアーガイド協会
ビジターセンター

『カリキュラム・
授業実践への助言』
カリキュラム開発等専門家
文教大学

探究活動の共通言語

気づく・深める・伝える

『令和4年度の目標』

- ①継続性のある探究学習の開発
- ②地域協働学習実施支援員との連携
- ③校内体制の確立（共通理解・共通認識、組織体制、校務精査）

『取組状況と成果』

①八文学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業実践

- ・八文学Ⅲ（八丈島を支え、発信するための実践活動を通じた探究学習）を開発した。
- ・探究学習3年間を通してのキャリア教育の確立した。⇒生徒の進学に対する姿勢が変化した。
- ・島民会議の成果と町の変化⇒島民会議や授業を通して、八丈高校や高校生に対する理解を深めた。
- ・園芸科、家政科との探究交流会を実施した。⇒生徒同士の探究的な学びを相互に深めた。
- ・1,2,3年生の合同授業の実施した。⇒先輩から後輩への助言により、探究学習を深めることができた。

②校内体制の強化

- ・普通科教員を八文学に配置した。⇒八文学に対する、共通理解・共通認識が増加した。
- ・探究学習及び地域の窓口（地域協働事務局）を設置した。⇒地域協働事業の運営が円滑になった。

③PDCAサイクルによる改善

- ・運営指導委員会の定期的な実施による見直しと改善
- ・コンソーシアム協議会を中心とした管理機関、カリキュラム開発等専門家及びコンソーシアムによる、見直しと改善
⇒定期的に、さまざまな知見からの見直しにより、運営体制・カリキュラムの開発・地域との連携を強化することができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
八文学Ⅰ										フェノロ ジーカレン ダー完成		
八文学Ⅱ							ブレ島 民会議		島民 会議			オンライン 交流会
八文学Ⅲ												

『今後の課題』

①八文学に関する地域探究学習の確立を継続性

- ・探究ツールを利用した学習活動のプログラムのさらなる開発
- ・学習成果物の島内、島外へ発信する。
- ・島民会議の継続的な実践する。

②校内体制の強化

- ・探究的な学びの教科等横断的な実践する。
- ・普通科、園芸科、家政科との探究活動学科間交流する。
- ・教員の共通理解・共通認識のため、研修会を実施する。
- ・スクールミッション等に基づき教育活動や業務内容の精選・再編成等の見直しをする。

③八丈島の小学校、中学校との連携した取り組み

- ・小学校3校、中学校3校と連携した系統的な「地域学習」の検討と開発する。
- ・教員、生徒の探究交流会の実施する。

④地域協働学習支援員を中心とした地域協働体制の確立

- ・地域人材のさらなる活用（PTA、コンソーシアムなど）
- ・地域協働4年目に向けた「地域」が主体となる「八文学」の確立する。

⑤地域を協働した探究活動実施のための継続的な財源確保